



半田滋の

Handa Shigeru

新・安全保障論

第125回

改善してきた日中関係 高市首相の登場で水泡に

立危機事態に発展すると述べたよう取れる。事態認定があれば、日本は米軍を守るために中国と戦うことになるが、この戦いは、台湾を守る戦争そのものだ。

問題は、台湾は自国の領土との中国の主張を「十分理解し、尊重」

するとして1972年の日中共同

声明と矛盾する点にある。つまり

対米支援に焦点を当てた安全保障

関連法が前面に出ることにより、共同声明が空文化して日中関係は

崩壊し、日本は戦争への「巻き込

まれ」を余儀なくされる。

同法によると、存立危機事態とは「密接な関係にある他国」が攻撃され、日本の存立が脅かされる事態をいい、自衛隊がその他国を守るために海外で武力行使できるとする。政府は「密接な関係にある他国」として米国を想定する。

高市氏は、中国軍による海上封鎖を解くために米軍が来援し、存

れ過ぎて、対米支援が対中戦争となる構図に目を向けなかつたと考

えるほかない。

高市氏は国会で、中国の戦艦に

ても存立危機事態になるとも答弁

した。政府は台湾を「国」とは認

めておらず、したがつて「密接な関

係にある他国」には該当しない。

しかし、高市氏の答弁はあいまいで、法律を踏み越えてでも台湾

を防衛すると主張したとも取れ

た立場だ」と中国側に説明した。

これは習近平国家主席と戦略的

互恵関係の進展を約束した日中首

腦会談の翌日、台湾の元行政院副

院長（元副首相）とも会談したこ

とと同様、中国側に「高市政権は

二枚舌」との疑惑を抱かせた。

安倍政権で最悪になつた日中関係は、後任の首相によつて少しずつ改善してきたが、高市首相の登場で水泡に帰した。外交の機微を理解しない首相に政治の舵取りはできない。家計は火の車、国土は火だるまになりかねない。



11月7日、衆院予算委員会で挙手をする高市早苗首相。
(提供/つのだよしお・アフロ)

る。これは自民党副総裁に再就任した麻生太郎元首相の持論「台湾有事は存立危機事態」、だから「戦う覚悟です」と同じ意味になる。いずれにしても中国が自国の内政問題であり、核心的利益とする

台湾に高市氏が手を突つ込み、虎の尾を踏んだのは間違いない。野党に発言を批判され、撤回しないと強弁したにもかかわらず、木原

穂官房長官は「対話による平和的解決を期待するのが政府の一貫した立場だ」と中国側に説明した。

これは習近平国家主席と戦略的互恵関係の進展を約束した日中首脳会談の翌日、台湾の元行政院副院长（元副首相）とも会談したことで、法律を踏み越えてでも台湾を防衛すると主張したとも取れた立場だ」と中国側に説明した。

これは習近平国家主席と戦略的互恵関係の進展を約束した日中首脳会談の翌日、台湾の元行政院副院长（元副首相）とも会談したことで、法律を踏み越えてでも台湾を防衛すると主張したとも取れた立場だ」と中国側に説明した。

これは習近平国家主席と戦略的互恵関係の進展を約束した日中首脳会談の翌日、台湾の元行政院副院长（元副首相）とも会談したことで、法律を踏み越えてでも台湾を防衛すると主張したとも取れた立場だ」と中国側に説明した。

はんだ しげる・防衛ジャーナリスト。11月29日に新刊『半田滋の新・安全保障論』「政治」の現在地』(あけび書房)発売。

安倍